



オンプレミスとは、どのような意味なのでしょうか？



IT システムを構築する際に、サーバーやネットワーク機器を購入(リース契約など)して、自社の建物内に設置・運用していくことを「オンプレミス」あるいは「自社運用型」といいます。従来から企業で一般的に利用されています。

クラウドが登場する以前は、システムや Web サイト構築・運用時の選択肢はオンプレミスか、外部のハウジング(コロケーション)やレンタルサーバー利用が大半でした。

しかし近年では、インターネット上の外部リソースであるクラウドコンピューティングなどを活用することで、同様の IT システムを構築することができるようになり、クラウドへの移行が加速してきています。

クラウドとオンプレミスのメリット・デメリットです。

■ オンプレミスとクラウドの比較

	オンプレミス	クラウド
コスト形態	資産	経費
コスト	 サーバーやソフトウェアライセンス、ネットワーク機器の購入など初期費用が高額。数年後の使用量を想定して初期投資が必要。	 初期費用無料が一般的。低コストでスタートでき、必要な時に必要なだけサーバー増減が可能のため、コストを最適化しやすい。
インフラ調達期間	 機器調達に、数週間から数か月かかる。	 アカウント登録後すぐに利用できる。Web上から、サーバー台数の増減やスペック変更などが行える。
カスタマイズ	 自前で構築するため、要望にあわせて自由にカスタマイズ可能。	 IaaS型クラウドの場合、比較的自由度高く使える。
ネットワークセキュリティ	 自社内の閉じたネットワーク環境下でシステム構築・運用できるため安心。	 他のユーザーと物理的に分かれたプライベートネットワーク(VLAN)環境を利用できるため安全。
既存システムとの連携	 同一ネットワーク内にある社内システムとの連携や統合などの自由度は高い。	 インターネット利用を前提とした場合、連携不可のケースもある。閉域網接続などインターネットを経由せずに、自社システムと連携するハイブリッド利用も増えている。
障害対応	 自社で復旧作業を行う。場合によっては現地へ駆けつける。	 クラウド事業者が復旧作業を行うため、インターネット越しに復旧を確認できる。